

頑張る

農業法人

「安全・安心の茶を消費者に届けたい」父の信念を継いで、無農薬・有機質肥料の宇治茶栽培にこだわる南山城村童仙房の有限会社「童仙房茶舗」代表取締役の布施田雅浩さん(40)。有機JAS認定を取得。さらに法人化で社会的信用を高めている。茶の販売取引の増加、消費者の定着化などを実現して経営は順調だ。従業員を雇用して休耕茶園の復活にも力を入れてる。

「安全・安心の茶を消費者に届けたい」父の信念を継いで、無農薬・有機質肥料の宇治茶栽培にこだわる南山城村童仙房の有限会社「童仙房茶舗」代表取締役の布施田雅浩さん(40)。有機JAS認定を取得。さらに法人化で社会的信用を高めている。茶の販売取引の増加、消費者の定着化などを実現して経営は順調だ。従業員を雇用して休耕茶園の復活にも力を入れてる。

童仙房地区は、同村の北西部で標高約550mの中山間地。明治時代に府が同地区を開拓したとき、先祖の布施田文吉さんが入植して当地に合った茶と米の栽培を始めた。

当初は病害虫で収量が半減したが、テントウムシなどの天敵が増え、茶樹の抵抗性も高まってきた。5年後には従来の収量の8割まで復活できた。当時、小学生で農業を手伝っていた雅浩さんは父の思いを実感した。

その後も代々、茶栽培

雅浩さんは大学卒業後、サラリーマンをしていたが4年間で退職、父の後を継いだ。父は2002年に亡くなったが、その2年前に有機JAS認定を取得した。無

(有)童仙房茶舗

南山城村



無農薬・有機栽培にこだわり続ける布施田さん(左)と若手従業員

無農薬茶にこだわり

信頼高めて経営は順調

2004年1月に同社を立ち上げ有機煎茶などの販売に取り組んだ。代表取締役の雅浩さんと母を含め3人の従業員で同社を運営し、地元の休耕茶園を引き受け現在6畝で煎茶を生産する。若手従業員2人が茶園管理や収穫、製茶などに取り組み。

農業栽培で茶商や消費者の注目を集め、直接買いた。求められるようになった。さらに、雅浩さんはより社会的信用を高め、雇用確保もしようと、

雅浩さんは「法人化で信用も得られ、求人募集にも応じてくれる。安全にこだわる取引先も増えた」と語る。「今後は味の良さを保つため、気候変動に合った栽培方法を工夫したい。また、海外でも無農薬栽培への関心が高まっているので、地域にも広めて童仙房ブランドとして海外に届きたい」と夢は広がる。

▽法人所在地 相楽郡南山城村童仙房小玉129。電話 0743(93)0046。